

# 和牛放牧で獣害防止

情報提供 伊勢原市農政課

平成18年12月15日

伊勢原市では、野生鳥獣による農作物被害に悩まされておりこの防除対策として、18年9月から試験的に同市日向地区にある、遊休農地約50aに黒毛和種2頭を放牧しました。同地区は、普通作や果樹が栽培されており、シカやサル、イノシシなどによる被害の増加が営農意欲の低下や遊休農地の増加の要因となり、地域農業に深刻な影響を与えています。

実証試験は雑草が生い茂る9月から10月末までの2ヶ月間を県畜産技術センターから黒毛和種2頭を借り受け、JAいせはら等の協力により鳥獣害対策への有効性の検証を行いました。

放牧は、牛を逃がさないように周囲にソーラーパネルを利用した電気牧柵を設置し、牛が柵内を歩き回ることによってシカやイノシシなどが警戒して近寄ってこないかを調べました。

中間報告によると、住みついていたイノシシが設置区域から抜け出した痕跡があり、その後姿を見せなくなったそうです。また近所の農家からは「サルやシカも近寄らなくなった」という声も寄せられたという。

雑草を牛が食べることで、遊休農地は耕耘可能な農地に復元できました。また、雑草を食べようと牛が歩き回ることによって土壌が膨軟になり、糞による堆肥効果も期待できるという。生い茂った雑草を刈るのは重労働ですが、牛を利用し「放牧」で悩みを解消することが出来ました。

同市農政課では「成果がでているので今後被害が多い別の地区でも実施したい。また、放牧による農地の管理への理解が深まれば」と話しています。

休地は野生動物のすみか



耕耘可能な農地に復元

